

## 第四十八日目

師 範：天保のききんは1833年から39年まで7年間にわたって、農民や町の貧しい人々に大きな犠牲をしいていました。



米の不作と買い占めや年貢優先の政策で、米は不足し米価は上がり、民衆には手の届かないものになり、生活は成り立たなくなっていました。

元幕府の役人だった大塩平八郎は、見るに見かねて、本を売ってお金を作り、貧しい人々を救済しました。

しかし翌年に幕府の政策を批判して立ち上がりました。

乱は簡単にしずめられてしまいましたが、大きな影響をあたえました。

**1837年 大塩平八郎の乱がおこる。**

この年を覚えましょう。

コン太：これを



**「飢える人は皆 大塩に味方する」**

「ひと」は1、「は」は8、「みな」は37です。

師 範：ふん囲気がよく出ています。

**「人は皆 大塩の乱に 味方する」**

大塩の呼びかけに、集まった人もいたが、あまり多くはなかった。

しかし人々の心に残っていました。

大塩の話は伝説のようになって伝わりました。

ペン太：「ひとはみな」と読む以外に考えられません。



なかなかのできと考えます。